



学校法人軽井沢風越学園 事業報告 (2020年度)



目次

1. 事業概要(2020年度)	3
2. 決算	5
3. 教育活動	9
<3つの挑戦>	9
4. 教育関連活動	11
<寄付>	11
<授業料等減免制度>	12
<連携事業>	12
5. 運営	13
<財務・会計・経理>	13
<人事・労務>	13
<施設・設備>	13
<総務>	13
<校務>	13
<法務>	14
<広報>	14
<情報システム>	14
参考資料	15
<基本理念と5つの柱>	15
<大切にしたいこと>	15
<法人概要>	16
<職員組織>	17
<在籍数>	18
<在籍数推移>	18
<施設>	19



1. 事業概要(2020年度)

2016年6月から始まった約4年の設立準備を経て、2020年4月に幼稚園と義務教育学校を開校した。園児児童生徒は194名、スタッフは40名(内、4名は自治体からの研修派遣)。規模としては想定通りのスタートとなった。入園入学者は、5割が軽井沢町、1割が近隣市町(御代田町、佐久市、小諸市、上田市)、4割が他地域からの移住となり、地元経済等にも少なくないインパクトがあったと思われる。

2020年2月下旬頃から、国内における新型コロナウイルスの感染拡大状況に対応するために、開校計画の見直しの検討をスタート。開校関連行事の中止、オンライン授業実施のための準備、スタッフの勤務体制の変更などを行い、4月7日に予定していた「「はじまりの日」を見送る判断を3月28日にし、以後2か月間にわたって「オンライン登校」「分散登校」を実施した。いわゆる「通常登校」は6月1日から開始した。

幼小中混在校として、「異年齢編成」「土台の学び」「探究の学び」を軸としたカリキュラムの定着を目指して教育活動を行った。計画していたことを実践する中で、手応えがあったこと、そうではなかったことが入り混じる中、年度途中で実践の方向性を大きく見直したり、より深めたりするなど、「よりよくなる」ための動きを随時積極的に行った。その中で、子どもも保護者も混乱したり不安に感じることも少なからずあった。変更の意図や見通しを子どもと保護者に事前に丁寧に説明していくことが今後より一層求められるであろう。また、地域等の学校外の人との連携を目指していたものの、コロナ禍の中では交流の制限が多くあり、計画・構想で留まったものが数多くあった。多方面と連携しながらの教育活動の展開は、あきらめずに今後も模索していきたい。

法人面では、学校法人勤務経験者がいない中、手探りでの業務遂行の一年だった。専門家のサポートも受けながら、一つひとつの業務の構築、安定的な運用、効率化を目指していった。結果としては、大きなトラブルなく運営を進めてきたが、効率化を追求することが、子どもの活動の妨げになったり柔軟さを失わないように留意しなければならない。多くの人が生活する場としての環境整備・美化は課題が残る一年であった。年度末の子どもを対象にしたアンケートでは「軽井沢風越学園は、きれいに掃除され、整理整とんされている学校だ。」という質問に対して、「あまりそう思わない・そう思わない」という否定的な回答が46%と多くあった。広さやモノの多さが故に難しい側面もあるが、より一層エネルギーを費やして、整った環境をつくっていく必要がある。また、人事・労務面は様々な側面で改善を進めていかなければならない。法令や制度の理解から始まり、風越にあった仕組みの構築とその柔軟な運用を進めていく必要がある。限られた予算を有効活用した待遇面の改善や安定的な人員配置を実現していきたい。その他、新型コロナウイルス以外の大きな危機的な事象はない一年であったが、万が一に備えて危機管理体制を日頃から見直していくことも意識していきたい。

経営面では、大幅な赤字決算となった。開校から数年間の赤字は想定されていることではあったが、赤字幅を縮小する努力は続けていく必要がある。効率的・効果的な支出を進めると同時に、教育活動関連もしくはそれ以外の収入を上げていくことが求められる。

最後に、年度末に行った子どもたちの学校評価アンケート(1年生以上141名に実施)の回答の一部を紹介することで、事業概要のまとめとする。①わたしは、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んだ。②わたしは、この一年間で成長した。③一年間をふりかえると、「しあわせな一年間だったなあ」と思う。の3つの質問には、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した子どもがそれぞれ9割以上であった(学校評価アンケート結果グラフ参照)。軽井沢風越学園に関わるすべての人たちが、1人ひとりの子どもの幸せを願い、協力しながら開校初年度を歩んできた。このアン



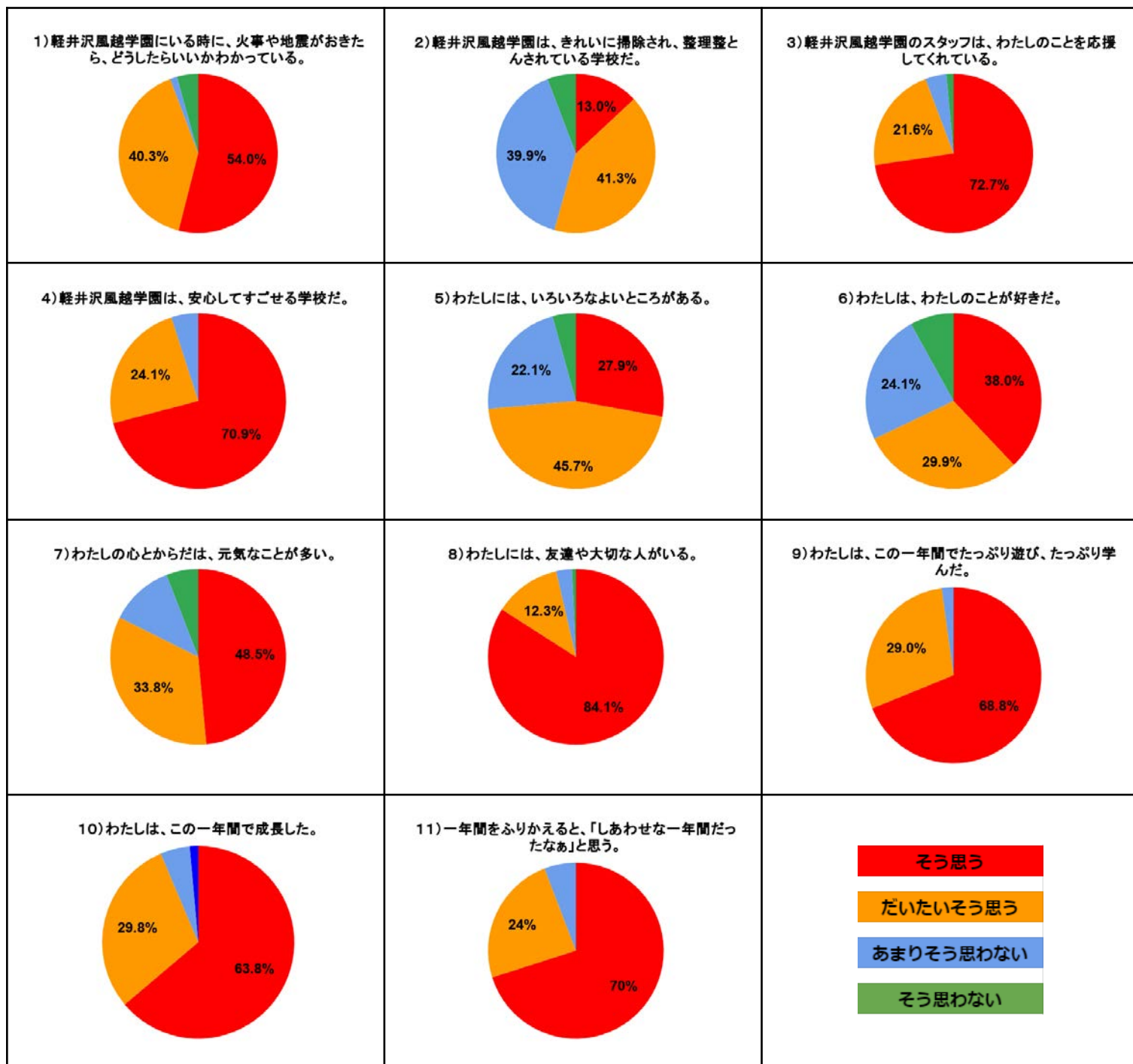
ケート結果で得られた子どもたちの声は、その歩みが大きく道を外していないことを物語っているのではないだろうか。2021年度も、1人ひとりの子どもたちの幸せを願い、引き続き力強く歩んでいきたい。

学校評価アンケート結果

実施日)2021年3月15～17日

対 象)軽井沢風越学園1～8年生 141名

備 考)すべての項目について学年別の回答に、統計的に有意な差はなかった。





2. 決算

※詳細は「2020年度計算書類」をご参照ください。

<資金収支計算書の概要>

(単位:円)

収入の部		予算	決算	差異
	学生生徒等納付金	175,565,000	169,952,000	5,613,000
	手数料	3,320,000	8,620,000	△5,300,000
	寄付金	70,000,000	80,005,578	△10,005,578
	補助金	56,990,000	65,836,000	△8,846,000
	付随事業収入	0	2,220,800	△2,220,800
	受取利息・配当金	18,000	0	18,000
	雑収入	0	4,929,506	△4,929,506
	前受金	13,900,000	12,450,000	1,450,000
	その他	0	45,295,579	△45,295,579
	資金収入調整勘定	△34,700,000	△45,587,731	10,887,731
	前年度繰越支払資金	400,067,863	400,067,863	—
収入の部合計		685,160,863	743,789,595	△58,628,732
支出の部		予算	決算	差異
	人件費	217,000,000	201,929,601	15,070,399
	教育研究経費	90,837,780	83,053,045	7,784,735
	管理経費	26,647,880	25,598,580	1,049,300
	施設関係	37,000,000	36,062,860	937,140
	設備関係	54,500,000	38,214,796	16,285,204
	資産運用	13,400,000	13,400,000	0
	その他	0	178,818,044	△178,818,044
	予備費※	3,000,000	—	3,000,000
	資金支出調整勘定	0	△32,195,624	32,195,624
	翌年度繰越支払資金	242,775,203	198,908,293	43,866,910
支出の部合計		685,160,863	743,789,595	△58,628,732

※予備費:当初予算10,000,000円-使用額7,000,000円=3,000,000円
(使用額内訳は2020年度計算書類をご参照ください)

<事業活動収支計算書(教育活動収支)の概要>



(単位:円)

教育活動収入		予算	決算	差異
	学生生徒等納付金	175,565,000	169,952,000	5,613,000
	手数料	3,320,000	8,620,000	△5,300,000
	寄付金	70,000,000	79,029,578	△9,029,578
	補助金	56,990,000	65,836,000	△8,846,000
	付随事業収入	0	2,220,800	△2,220,800
	雑収入	0	4,929,506	△4,929,506
教育活動収入合計		305,875,000	330,587,884	△24,712,884
教育活動支出		予算	決算	差異
	人件費	217,000,000	201,929,601	15,070,399
	教育研究経費	202,329,780	193,884,418	8,445,362
	管理経費	27,047,880	25,982,998	1,064,882
教育活動支出合計		446,377,660	421,797,017	24,580,643
収入一支出		△140,502,660	△91,209,133	△49,293,527

<補足説明>

1) 収入

- 学生生徒等納付金は、ほぼ予算通り(①入学辞退者が義務教育学校4名・幼稚園1名発生、②基本保育料が大幅減収のように見えるが、「基本保育料+施設等利用給付費+付随事業・収益事業」に分散して計上されているため)
- 手数料と寄付金は予算比で大幅増収したが、開校初年度の影響が大きい。
- 補助金も予算比約900万円の増収。園児1人あたり25.8万円(予算比+35.8%)、児童生徒1人あたり33.2万円(予算比+3.8%)の補助額となり、特に幼稚園に対する補助が大きかった。私立の義務教育学校は長野県で1校のみであり、そもそも充当される予算額が決まっていたようだが、幼稚園は我々の活動が評価されて増額された可能性が高い。
- 雑収入の約300万円は、教育関係者向け研修事業や視察・研修事業での売上。今後の事業展開のシードになりうる。

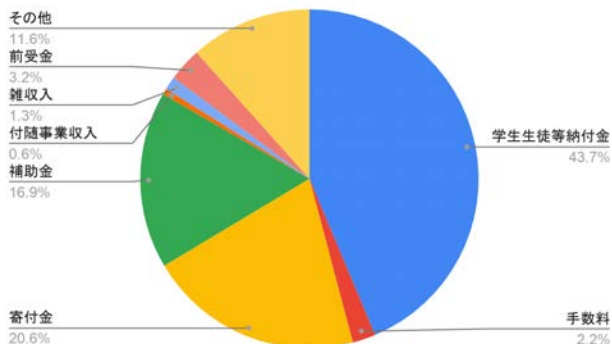
2) 支出

- 人件費: 退職者や退職者の発生、事務局スタッフの業務委託化によって予算を下回った。
- 教育研究経費、管理経費ともに予算策定時の設定ロジックが粗く、また、計上する科目にも修正があったため、予算と決算で差異が発生している。
- 消耗品費(教育研究経費の13.2%)が多いのは開校関連備品購入のため。
- 報酬委託手数料(管理経費の56.6%)が多いのは一部スタッフの業務委託化のため。



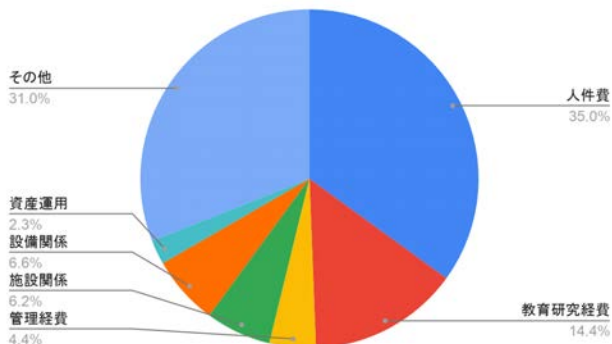
資金収支計算書(収入構成)

単位:円



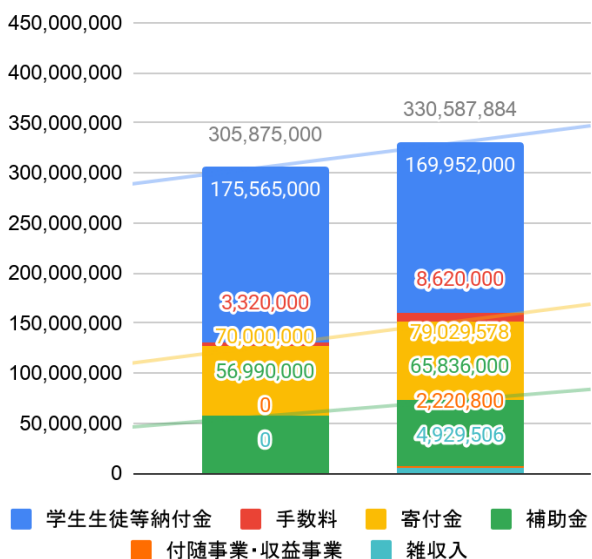
資金収支計算書(支出構成)

単位:円



教育活動収入(予実比較)

単位:円



教育活動支出(予実比較)

単位:円





<参考>

学校会計	企業会計
貸借対照表	貸借対照表
事業活動収支計算書	損益計算書
活動区分資金収支計算書	キャッシュフロー計算書

貸借対照表		事業活動収支計算書		活動区分資金収支計算書		
資産の部	負債の部	経常収支	教育活動収支	教育活動による 資金収支		
固定資産 有形固定資産 土地 建物 教育研究用機器 管理用機器 特定資産	固定負債		教育活動収入		教育活動支出	施設設備等活動による 資金収支
	流動負債 未払金 前受金 預り金		教育活動収支差額			
			教育活動外収支		教育活動外収入	その他の活動による 資金収支
			教育活動外支出	教育活動外収支差額		
流動資産	純資産の部		経常収支差額		現金預金残高	
現金	基本金(1~4号)		特別収支	特別活動収入		
	繰越収支差額		特別活動支出	特別収支差額		
			基本金組入前当年度収支差額			
			基本金組入額			
		当年度収支差額				
		前年度繰越収支差額				
		翌年度繰越収支差額				



3. 教育活動

<3つの挑戦>

①単位

幼稚園と義務教育学校の12年間を前期(年少～2年)と後期(3年～9年)に分け、異年齢の「ホーム」を生活の基盤とした。どのホームも複数スタッフでの運営とした。

前期は、幼児と1・2年生を混ぜたホーム運営の予定であったが、オンラインでの開校となったため、それぞれ分けたホームでのスタートとなった。6月の通常登校後も、再度のオンライン登校を想定して、そのままのホーム運営を継続した。その後何度か、年少～2年生でまざっての実践を検討したが実現には至らなかった。

後期は、異年齢のホーム運営に当初苦労していたが、冬頃から安定的な運営が見られるようになった。当初は国語や算数の学習においてもホームを単位としていたが、次第に「学びは近い年齢のラーニンググループ」、「生活はホーム」へと移行していった。

学びや生活の中で、異年齢ならではの学び合いや関わりが見られ、異年齢の価値を実感し始めている。

②学習

1. 土台の学び

a. 国語

「作家の時間」や「読書家の時間」の中で、自分で読みたいものや書きたいことを選択しながら、ライブラリー等の環境を生かして、たっぷり読みひたり、書きひたる経験を大切にしてきた。本がたくさんあっても日常的に手にとるようになるには手立てが必要であり、読むことが日常になるアプローチを試行錯誤しているところである。

b. 算数・数学

算数・数学そのもののおもしろさを感じ、味わえる場をつくってきた。「Fun Math」や「探究の算数」など体験的な学びの場を通じ、数学的な思考を深め、探究していく過程を大切にしてきた。QubenaやAtama+などのICT教材やテキストを使って、自ら学びのコントローラーをもち、学習を進めていく自由進度の学びを続けてきたことで、子どもたちの主体的に学ぶ力がついてきている。とはいえ、まだ学習者間の差があるのが実態である。

c. つくる・えがく

1・2年生は「つくる・えがく」という図工科の学習も土台の学びとして行った。前期の子どもにとっては、創造的な活動も土台の学びであり、それが後期のプロジェクトを中心とした探究の学びへとつながっていくことになる。



2. プロジェクト

a. テーマプロジェクト

様々な領域のテーマを、理科、社会、外国語などの教科の学びを含めつつ多様な領域を横断しながら深めていった。大きなテーマの中で、自分なりの問いを立て、自分なりの答えを求めて探究していくことを目指した。多様な探究方法や発信方法を考え、協同して取り組んだり、学校外のリソース(人的・物的共に)を活用したりして取り組んできた。テーマを表現分野(音楽、図画工作・美術、体育、技術家庭)に絞ったプロジェクトも行った。各分野共に、多様な表現方法を体験し、自分の強みを生かして「つくる」ことを探究していた。アウトプットデーで、それらの成果を内外に発信することができた。

b. 個人プロジェクト

自分の「～したい」を大切に、探究したいテーマを自分で決め、個人またはグループをつくって取り組んできた。スタートは自分の興味・関心や生活経験の中からの気付きで始まったり、普段の授業やワークショップの中で学んだことが刺激となってさらなる探究課題を設けたりと様々であった。夏休み以降は、「セルフビルド」という名称に変わり、数名の子どもにスタッフが伴走する形で行ってきた。しかし、自分の探究テーマに出会えない子へのサポートが今後の大きな課題の一つである。

c. 風越づくり(風越ミーティング)

風越ミーティングでは、「風越づくり」の様々なプロジェクトを立ち上げ、学校に必要な場やルール、システム、モノをつくることを目指した。子どもたち自身がファシリテーターとなり、子どもたちだけで決めていく場であり、民主的な運営をつくっていくプロセス自体が大きな学びとなった。昨年度は年に10回の全校風越ミーティングと、毎週1回の後期のみ風越ミーティングを定期的に行ってきた。その中で、ファシリテーターチームに10数人が立候補し、ファシリテーターのミーティングも活発に行われ、民主的な運営を自分たちで考え、全校の子どもたちが風越づくりに関われる形を日々模索していた。

③環境

1. ICTの文具化(後期は一人一台のChromebook)

3年生以上は授業や日々の記録に活用している。例えば国語の作文、プロジェクトでのアウトプット、日常のやりとりなど、必要に応じて使用している。導入当初はYouTube等のネットを過剰に利用する様子が見られたが、落ち着きつつある。

2. 自然環境の活用

特に前期は、子どもたちと一緒に日々の暮らしの拠点を野外につくるなど、自然環境を生かして保育を行ってきた。後期では、テーマプロジェクトでフィールドとしたり、子どもから立ち上がったプロジェクトで自然の保護活動(森・川プロジェクト等)を行ったりしてきた。毎週金曜日に保護者と校舎前の林を整備し、活動場所として活用できるようにした。まだ自然環境が身近ではない子どもが多いことは今後の課題である。



4. 教育関連活動

<寄付>

法人及び個人から、ふるさと納税・マンスリー寄付・直接寄付の3つの入口から寄付が寄せられた。授業料等減免制度の充実を軸にしながらも、教育環境・施設の充実のためにも活用していく。また、継続的な寄付を維持するためにも、寄付者とのコミュニケーションについて検討していく必要がある。

- 寄付の使途別

科目	使途	金額
特別寄付金	幼稚園施設充実等のため	976,000円
	授業料等減免のため	15,255,000円
	助成金	300,000円
一般寄付金	指定なし	63,474,578円
合計		80,005,578円

- 寄付の種類別

種類		件数	金額
個人	単発	7件	65,572,200円
	マンスリー	132件	713,000円
法人		2件	12,000,000円
その他	財団から移管	-	1,720,378円
合計			80,005,578円

- マンスリー寄付内訳

月額	申込人数	退会人数
1,000円	8人	1人
3,000円	2人	0人
5,000円	4人	1人
10,000円	10人	5人

- ふるさと納税(2020年度確定額 = 2020年12月31日までの入金額)

使途	件数	金額
幼稚園施設充実等のため	20件	3,840,000円
授業料等減免のため	21件	17,590,000円
合計	41件	21,430,000円



<授業料等減免制度>

義務教育学校在籍者のうち13%の子どもの制度利用があった。原資が限りある中で、授業料等の減免が必要な家庭とその子どもが1人でも多く制度を利用できるよう必要な制度変更を行っていく。

- 原資
 - 制度の原資となる奨学費は、2021年度分まで確保できている。
- 制度利用
 - 2020年度の授業料等減免制度利用者は19名(18家庭)。うち1名は年度途中で転校、もう1名は2021年度の継続申込なし。
 - 2021年度は26名(21家庭)が制度利用中である。26名のうち17名は2020年度からの継続、9名は新規採択。
- 制度設計
 - 2020年度は、入学金・授業料・施設費の80万円を減免していたが、2021年度は入学金・授業料の70万円を減免の対象とし、施設費・教材費12万4000円については家庭負担と変更。
 - 2022年度については、世帯所得基準額に応じて全額減免・半額減免・1/3減免と減免金額を希望者が選択できるよう、制度変更をして案内している。
 - 対象要件の「2019年4月1日時点で児童生徒及び保護者が軽井沢町か御代田町に居住していること」の変更時期については引き続き検討中(移住して制度利用を希望する家庭が増加することを懸念)。

<連携事業>

コロナ禍の中での連携は、制約が多く想像以上に進めていくのが困難であった。2つの自治体からの教員研修派遣(4名)、軽井沢町内小中学校との研修の実施が中心的な実績となった。

- 自治体連携
 - 長野県教育委員会...教員研修派遣に関する協定(2020年度 2名)
 - 日野市教育委員会...教員研修派遣に関する協定(2020年度 2名)
 - 軽井沢町...研修会の実施(軽井沢西部小2回、軽井沢西部小・東部小合同1回、軽井沢町小中学校合同1回)
- 法人連携
 - 信州大学...包括的連携協定(免許更新講座開催は中止)
 - 東京学芸大学...包括的連携協定(インターン派遣1名、3か月間)
- その他
 - 信州大学社会基盤研究所と軽井沢町との連携...具体的な動きはなし
 - 株式会社COMPASS...AI型タブレット教材qubenaの実証実験校としての導入
 - 神戸大学.....発達科学部赤木和重准教授と共同研究の実施。テーマ「軽井沢風越学園在籍児の心理発達の縦断調査」
 - 株式会社Biotope...探究スキルカード及び理科社会の学びのマップの制作



5. 運営

2020年度の経営方針「①法令遵守 ②構築 ③創造 ④効率」を意識しながら、学校運営に必要な環境や基盤を整え続けた1年であった。

<財務・会計・経理>

- 開校初年度のため、当初予算の設定根拠に正確性が足りず、補正予算を組むことになり、また、コロナ禍の影響で想定外の緊急支出が発生した。状況的に致し方ない面はあるが、収入総額は年初でほぼ確定されることから、今後はより厳格な予算統制が必要である。
- 学校法人会計基準に則った業務オペレーションの基礎は確立できた。

<人事・労務>

- 各種規程を策定するだけでなく、就業規則のように労使間で協議を重ねながら見直してきたことは小さいながら一つの成果と言える。
- 法令遵守を前提としながら、学園が目指す学校づくりのためにスタッフにとってはたらくやすい労働環境をいかにつくるか、また、新規採用を含めた安定的な人員配置の確立が今後の課題。

<施設・設備>

- 屋外トイレや倉庫、体育館、グラウンド整備など、学びや遊び、カリキュラムに応じて積極的な整備を行った。
- コロナ禍のため、活動頻度は限られたが、森の整備や清掃など保護者の方々と協同して実施することができた。
- 校舎・校地が広く、モノが多い環境であり、かつ限られた人員の中でいかに環境整や美化を整えていくかが今後の課題。

<総務>

- 開校に必要な教具等の備品は、状況に応じながら年間を通して整備を続けた。
- 学期ごとの資産の棚卸しや物品購入フローなど管理体制の基礎は確立できた。
- 今あるリソースを活かきることと、モノが大切に扱われる環境づくりが今後の課題。

<校務>

- 「ランチ」と呼ばれる組織で校務分掌を業務別に担う等、学校運営上必要な体制を構築した。
- 行政機関とも密に連携し、調査・補助金・保育無償化対応など滞りなく対応した。
- 開校初年度であったが、大きな事故なく学校生活を送ることができた。今後より細かなマニュアルを整えるなどリスクマネジメントを強化する。



<法務>

- 関連法規に則っているか否か、不明点や疑問点は随時弁護士や司法書士などの専門家にアドバイスをいただきながら学校運営をしてきた。
- スタッフへ周知徹底するための研修や啓蒙活動の実施や保護者に対するプライバシーや肖像権に関する対応が今後の課題。

<広報>

- 2020年度に掲載した「かぜの一と」記事は152本(累計270本)。内部スタッフだけでなく外部有識者や子どもなど、書き手の広がりを意識して編集した。
- 2021年3月号(第47号)のメルマガ購読者数は3,332人。
- メディア取材については基本受けない方針を継続。地元紙の信濃毎日新聞は、県内中山間地域における公教育がよくなっていくことに寄与できる可能性があるため、継続的に取材を受けている。
- 地域の方向けの広報、寄付者へのお礼として冊子「風文」を2号発行。
- メディアを通じた認知の拡がりにより、ミスマッチな入園入学希望者の増加は避けたく、出る媒体や企画については今後も吟味が必要だと考えている。

<情報システム>

- 学校会計システムや校務支援システム等が導入され、基本的に安定稼働していた。
- 情報システム担当者の設置と情報セキュリティ対策の整備が今後の課題。



参考資料

<基本理念と5つの柱>

(基本理念)

超一流のベンチャーを目指し続ける。

「よりよい」をつくろうとする意志を持ち、行動し、それによる成果を長く継続的に出し続ける。

(5つの柱)

1. 幸福の追求
2. 変態の追求
3. プロフェッショナリズムの追求
4. 手間の追求
5. あそびの追求

<大切にしたいこと>

「つくる」

軽井沢風越学園は、子どもも大人も「つくる」経験を、じっくり、ゆったり、たっぷり、まざって積み重ねていきます。

本気で手間をかけて「つくる」ことに没頭し、ときには不安や不安定さを味わいながら「つくる」ことに挑戦していきます。

私たちは子どもこそが作り手であることを信じています。

ここでいう「つくる」は物理的なものや学習の成果物だけにとどまりません。安全・安心な場を自分たちでつくる、学びをつくる、自分たちの学校をつくる、コミュニティをつくる、仕組みをつくる、ルールをつくる、自分をつくる。つまり、「わたし(たち)の未来をわたし(たち)でつくる」冒険をするのです。

子どもたち、スタッフ、保護者、地域の方々など、軽井沢風越学園では誰もが作り手です。

「つくる」ことを通じて、「自由に生きる」ということと「自由を相互に承認する」ということを繰り返して試していきます。そうすることで、1人ひとりが幸せになり、幸せな社会をつくっていくのです。



<法人概要>

(2021年5月1日現在)

法人名	学校法人軽井沢風越学園
設置校	軽井沢風越幼稚園(幼稚園) 軽井沢風越学園(義務教育学校)
所在地	〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町大字発地1278-16
HP	https://kazakoshi.ed.jp/
理事 (定員7名)	本城慎之介(理事長) / 岩瀬直樹(校長・園長) / 小川佳也(事務局長) / 井手直行 / 紅谷浩之 / 松平誠 / 山崎繭加
監事 (定員2名)	丸田由香里 / 弓場法
評議員 (定員15名)	青木将幸 / 荒井英治郎 / 今井悠介 / 今村久美 / 大野暉 菅谷貴子 / 杉浦紘子 / 土屋芳春 / 原田英治 / 根岸加奈 (岩瀬直樹) / (小川佳也) / (紅谷浩之) / (山崎繭加) ()は理事兼任の評議員
役員に関する 事項他	【責任限定契約】 学校法人与非業務執行理事4名間で締結 【役員賠償責任保険】 1. 補償対象:役員がその職務執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずる賠償責任 2. 保険期間:2021年4月1日~2022年4月1日(1年間) 3. 保険会社:東京海上日動火災保険株式会社 4. 保険料:320,000円(年間) 5. 被保険者の範囲:(1)個人被保険者(①理事:本城慎之介、岩瀬直樹、小川佳也、井手直行、紅谷浩之、松平誠、山崎繭加、②監事:丸田由香里、弓場法、③管理職従業員:甲斐崎博史、寺中祥吾)、 (2)会社(記名法人:学校法人軽井沢風越学園) 6. 補償額:支払限度額3億円(1事故・1請求 保険期間中/免責金額0円)



<職員組織>

(2021年5月1日現在)

法人	幼稚園・義務教育学校	自治体派遣
本城慎之介(理事長) 小川佳也(事務局長) 遠藤綾 佐々木知範 西村隆彦 松澤雛子 水澤宣二 宮原香 友廣さやか(パートタイマー) 辰巳真理子(業務委託) 外崎恵子(業務委託) 三輪ひかり(業務委託)	岩瀬直樹(校長・園長) 甲斐崎博史(副校長) 寺中祥吾(副校長) 有山裕美子 井手祐子 井上太智 岩瀬さやか 臼田亜由美 馬野友之 岡部哲 奥野千夏 甲斐利恵子 片岡利允 勝山翔太 木村彰宏 酒井朝羽 坂巻愛子 佐藤美智子 澤田英輔 清水春美(養護教諭) 大作光子(司書教諭) 根岸加奈 野村祐衣 橋場美穂 曳田裕子 藤山茉優 村上聡恵 茂木輝之 丸山愛美 山崎恭平 山田雄司 猪狩才子(パートタイマー) 佐々木さやか(パートタイマー) 大西信慈(業務委託) 齊土美和子(業務委託)	青野遼(長野県教委) 羽田鋭(長野県教委) 岡田達明(日野市教委) 笠原由衣(日野市教委)



<在籍数>

(2021年5月1日現在)

		学年	定員	在籍	充足率
幼稚園	前期	年少	24	23	95.8%
		年中	24	24	100.0%
		年長	24	22	91.7%
		小計	72	69	95.8%
義務教育学校		1年	35	30	85.7%
		2年	35	31	88.6%
	後期	3年	35	25	71.4%
		4年	35	20	57.1%
		5年	35	22	62.9%
		6年	35	21	60.0%
		7年	35	20	57.1%
		8年	35	25	71.4%
		9年	35	0	0.0%
		小計	315	194	61.6%
	合計	387	263	68.0%	

<在籍数推移>

(各年度5月1日現在)

		2020年度	2021年度
幼稚園	在籍数	48	69
	定員:72	充足率	66.7%
義務教育学校	在籍数	146	194
	定員:315	充足率	46.3%
合計	在籍数	194	263
	定員:387	充足率	50.1%



<施設>

構造	S造 階数2
敷地面積	約 70,000㎡
建築面積	約 5,322.74㎡
延床面積	約 6,771.52㎡
設計・管理	株式会社環境デザイン研究所
施工	北野建設株式会社
工期	2018年11月2日～2020年2月19日

